

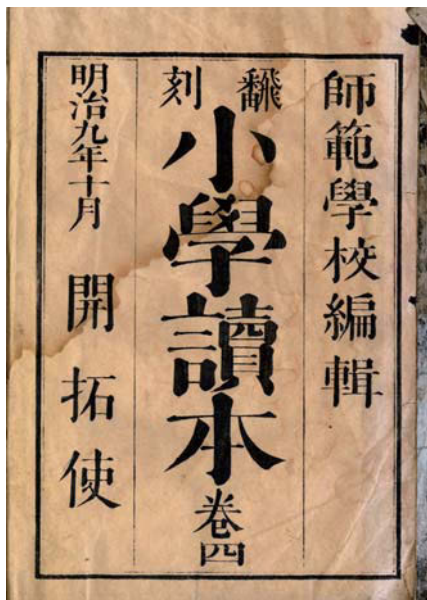
浜益のお宝「開拓使版 小学読本」

今回取り上げるのは、はまます郷土資料館に収蔵されている開拓使時代の教科書「小学読本巻四」です。この教科書は、縦22・2cm、横15cmの和綴本で印刷は木版です。裏表紙には「茂生学校 真田文亮読書」と墨で書いてあります。茂生は浜益の古い呼び方で、茂生学校は浜益で最初の学校です。明治11(1878)年に大心寺の前にあった開拓使の建物を使って開校しました。

さて、これが「浜益のお宝」だといふのは、北海道開拓使が印刷した教科書だからです。明治に入り、政府は西洋型の学校教育制度の整備を進めました。しかし、最初は適当な教科書がなく、文部省は外国の教科書を翻訳して「小学読本」を編集しました。「小学読本」は、北海道を含め多くの都道府県で採用されましたが、県ごとに印刷したため、たくさんさんの版が生まれました。

その中で北海道開拓使版「小学読本」は、印刷部数が少なく現在ほとんど残っていないのです。調べてみたところ国会図書館にも所蔵されておらず、道内の大学、図書館、博物館でもほんの数冊しか残っていませんでした。なかでも今回取り上げた「小学読本巻四」は、とりわけ珍しいようです。

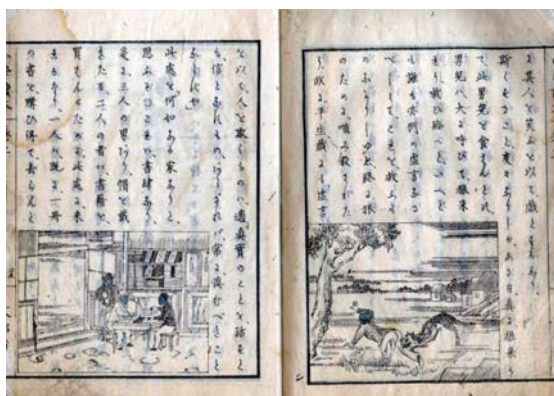
のです。(工藤義衛)



開拓使版「小学読本」(巻四)



同「小学読本」の裏表紙



同「小学読本」(巻二)

〈小学読本の一節〉

第一 人民ノ住居スル世界ヲ地球ト云フ、其形ハ圓キ者ナリ、何ニ由リ其圓キコトヲ、知ルヤ、玉ヲ燈火ニ照セバ其影ノ映ルコト箱ト同ジク、方

〈解説〉

当時は文明開化の時代ということで、欧米の教科書を翻訳したものが多く用いられました。この小学読本は、翻訳調の教科書の代表的なものです。



工藤 義衛 Tomoe Kudo

専門分野は考古学と風俗史。石狩独特の文化を研究する一環で石狩の食を代表する「石狩鍋」の歴史やルーツについても調査を行う。